

双松会会報

第41号「双松会」通巻45号「松高北高同窓会報」通巻45号

発行 松江市奥谷町164番地 島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL: 0852-21-4888
FAX: 0852-21-4977
印刷 有限会社高浜印刷 TEL: 0852-36-9100

青春グラフィティ

Vol.18

普通科29期・理数科8期 (昭和53年卒)

達山 暢

花と嵐の同窓会

私たちは昭和53年に卒業した「高校29期・理数科8期」です。川津校舎最後の卒業生、そして共通一次試験開始の前年で国立大学1期校2期校の両方を受験できた最後の学年です。卒業から42年経ち、令和元年9月20日に還暦同窓会を開催しました。

学年全体の同窓会はまだ何度か開催しており、例えば卒業30周年記念の同窓会を企画しましたが、準備の途中でまだ29年目であったことに気づき、それでも会場の横断幕を「卒業『約』30周年同窓会」と書き換えて開催したというお気楽な世代です。予想外に盛り上がったので、調子に乗って「本当の30周年」「31周年」と3年連続開催しましたが、年を追うごとに参加者が少なくなり、その後しばらく大人しくしてしまいました。

さて還暦同窓会。前回同様、今回も坂本拓三君と私が世話人代表を仰せつかりました。中学校など他の同窓会と日程が重ならないように、開催日はお盆やGWを避けて9月の連休を、そして会場は松江フォーゲルパークを選びました。市内のホテルや会館では後になって、あれはいつの、どの学校の同窓会だったのかと記憶が曖昧になります。少し不便な場所ですが、北高の還暦同窓会は綺麗な花の下だったねと思いがけずできるかと同窓会のお世話で大変なのは、

当日ではなく事前準備です。各ルームから世話人に出ていただき、何度も打ち合わせ・作業を行いました(もちろん毎回懇親会付きです)。名簿を作成して飲み、案内状を作成して飲み、発送して飲み、返信ハガキを仕分けして飲み、名札を作って飲み、当日の役割分担を決めて飲みました。

すべての準備が順調に進んでいたのですが、開催1週間前から雲行きが怪しくなってきました。台風17号が近づいてきたのです。平成3年の「りんご台風」とよく似た進路で、雨風とも相当強く大きな被害が起こりうるとの予報でした。会場そのものは屋内ですから問題ないのですが、往復の移動が心配です。遠方から帰省される人ももっと大変です。そもそもそんな時に、大勢集まって同窓会を強行することが如何なものかとも考えました。一畑電鉄のご担当と何度も相談しましたが、往路はともかく夜間帰りの電車を運行できる自信がない見通しとのこと。相当迷いましたが、移動用にバスを3台チャーターし、同窓会を決行することにしました。開催2日前のことです。

さて当日。幸い台風は進路が北にそれ直撃こそ避けられましたが、風はそこそ



こに強く、一畑電鉄は午前10時過ぎに当日夜の連休を決めました。結局2日前に予約したバスが役に立ったのです。私たちはお昼過ぎから会場で設営準備をして、同級生の到着を待ちました。「台風だけ同窓会は決行する」「復路はバスがあるので心配いらない」ことは同級生専用のインターネット掲示板に掲載し、可能な限り口コミでも伝えてはいましたが、本当に来てくれるだろうかと心配でした。それでも電車が到着するたびに賑やかになり、開始する前から会場がたくさんの笑顔で溢れている様子を見た瞬間に、同窓会の成功を確信しました。

台風のせいでも松江まで帰省できなかつた人もいれば、逆に運動会が中止になって参加できるようになった人もいました。最終的には松江フォーゲルパークに125人、そして松江市内での二次会にも72人の仲間が集まり、還暦の年に、嵐の夜に、フォーゲルパークの花々に囲まれて、記憶に残る大同窓会を行うことができました。準備に集まってくれた世話人は約20人。作業はいつも拓三の事務所で行いました。偶々帰省していた聖子も手伝ってくれました。当日松江しんじ湖温泉駅で5人、松江フォーゲルパーク会場で3人が受付をしてくれました。慎吾は会場ですす映像を準備してくれました。(台風で中止になりましたが、当日のゴルフコンペも企画してくれました。)世話人だけではありません。智恵美は予定があつて同窓会に参加できなかったのですが、行方知れずであつた同級生の連絡先をすいぶん見つけてくれました。案内状が届いていない同級生に連絡して、連れてきてくれた人もいました。日出夫は(お願ひしてもいなかつたのに)卒業アルバムから全ルーム全員の写真ページをコピーして持ってきてくれました。これは急遽会場に掲示しました。谷さんには二次会の仕切りを急遽丸投げしましたが、見事に盛り上げてくれました。皆さん本場にありがとうございました。

参加した人、できなかつた人全員でつくりあげた同窓会です。すでにお亡くなりになつていた20人も含め誰もが同級生、いくつになつても仲間です。もうあれだけ大きな企画はできないかもしれませんが、またどこかで会いましょう。

一畑電鉄様および松江フォーゲルパーク様には大変お世話になりました。また校歌斉唱の伴奏音源は、以前近畿双松会で27期の宇田川妙さんが演奏されたときのものを拝借しました。あわせてお礼申し上げます。



あいさつ

会長 金津 任紀

高16期(昭和40年卒)

今年も酷暑の夏を迎えまして。双松会の皆さまにはますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃より双松会の運営に温かいご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、今年にはオリンピックイヤーで本来なら東京オリンピック・パラリンピックに日本中が沸くところでしたが、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の影響で残念ながら来年に延期になりました。また、日本の風物詩ともいえるスポーツ・文化イベント、各地のお祭りなども相次いで中止となり過去にない静かで寂しい夏になりました。母校北高でも臨時休校や部活動の中止、自粛などがあり、子どもたちの学業や心身への影響も心配されます。この間、非常事態の厳しい環境下で創意工夫を凝らし懸命に生徒の学習や生活の指導にあたられた教職員の方々に敬意と感謝を申し上げますとともに、生徒諸君にはこの未曾有の経験を乗り越え強く逞しく成長をしてほしいと願わずにはられません。

一方、新年度が始まり本会の活動も本格的にスタートさせるころでしたが、6月の常任幹事会、7月の幹事総会が中止になるなど、十分な活動ができていないのが現状です。また、会員諸氏におかれましては、コロナ禍で困難な経済活動や日常生活を強いられるものと拝察し衷心よりお見舞いを申し上げます。一日も早い終息と会員の皆さまの健康、安全をお祈りいたします。

来年は5年に1回の会員名簿も発行します。この名簿が有効活用され会員相互の親睦と交流が深まり同窓会活動に役立つとともに、学校に対する様々な支援、協力の輪が広がることを期待しております。昨今、感染症対策としてオンライン化が普及しつつありますが、疎遠になりかけていた旧友と新たな生活様式を実践してみたいかがでしょうか。そして、母校や本会の動向についてタイムリーな情報発信をしていくため、今年度中にホームページを立ち上げる予定です。出来上がりましたらぜひ閲覧をお願いいたします。

双松会も来年は145周年を迎え記念総会を令和3年11月13日に開催することが決まっています。会員には実に様々な分野の多士済々の方がおられますので、年代を超えて交流を深める絶好の機会です。その準備が年内にスタートします。会員の皆さまにはご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。また、多くの皆さまにご参加いただき、多くのお祝い申し上げます。



学校長あいさつ

校長 常松 徹

双松会は母校北高あってこそ存在であり北高の発展と生徒の活躍のために支援、協力していくという考え方は終始一貫不変です。令和という不確実性の時代にあつて未来を担う若者たちのために、できる限りのことをしていただくことはこれまで生きてきた我々の責任と考えています。我々の母校は「文武両道」

「質実剛健」の基本精神のもと世に有為な人材を数多く輩出してきました。自然災害や最近の新型コロナウイルスのパンデミックなど、予期せぬ危機から世の中を救えるエリートを育てていくためには、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

休業中の学習保障に有効であると言われるICT機器を効果的に活用できていたのかについても改善すべき点がありました。そこで、これを機に校内にM.I.T.(学びを止めない教育ICT活用推進チーム)を立ち上げ、来るかもしれない第二波、第三波に備え研究・研修を進めているところです。

ご承知のように、来春の高校入試から松江市内普通科3校の校区が撤廃され、市内の中学生は自由に学校を選択し受験します。本校としては、「質実剛健・文武両道」の校訓のもと、「世界の人たれ」をS.I.(スクールアイデンティティ)として掲げ、「世界を動かそうと思ったなら、まず自分自身を動かす」こと、そのための資質・能力として「人間関係構築力・知的探求力・自己開拓力・社会貢献力」の育成に努めること、そして、生徒の大学進学等の進路実現に責任を持ち、さらに非認知能力をも高める学校であることを中学生にアピールしていきたいと考えています。

本校は、来年(令和3年)には創立145周年を迎えます。松江北高校が令和の時代においても県内の高校をリードする学校であり続けられるよう、教職員・生徒が力を合わせ、今以上に魅力ある学校づくりに邁進していく所存です。会員の皆様におかれましては引き続きご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

※非認知能力:
認知しにくい、点数化・数値化することが困難な能力
ex) 忍耐力、目標への情熱、思いやり、自尊心など

事務局だより

一、新型コロナウイルス感染症への対応について

国内外で猛威を振るっている新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、本校も4月15日から臨時休業となり、5月25日から分散登校(クラスを半分に分けて授業を実施)を経て、6月1日からようやく全面的な学校再開となりました。

双松会関係の会議についても5月21日の役員会のみ開催し、会則第10条「役員会は毎年一回開くことを原則とし、これを総会にかえることができる」という規定に従って、例年6月に開催している常任理事会、7月の幹事総会が中止となりました。

二、各地区の双松会の動向について

●東京双松会の総会
令和2年11月28日(土)11時
於 中央電気倶楽部

●広島双松会の総会
令和2年11月14日(土)16時
於 広島ダイヤモンドホテル

●米子双松会の総会
令和3年2月

●安来双松会
3月に会長の島田一嗣様が来校され、活動再開について報告がありました。

●大田双松会
昨年10月に9期の杉谷雅祥様が来校され、閉会について報告がありました。あわせて活動資

金の口座を解約した残金をご寄付頂きました。

なお、各地区の総会については、今後の新型コロナウイルスの感染状況によって、変更の可能性もあることをご承知おきください。

三、寄付金の御礼(昨年の7月以降)

次の方々より寄付金を頂戴いたしました。ご披露にあわせて厚く御礼申し上げます。

幸陽建設株式会社様より
大田双松会より1万3210円
令和2年卒
(普通科71期・理数科50期)会計より153円

令和元年度理数科研修旅行会計より33円
石田裕海様、上田 豊様、立岩淳一様、神門正城様、神門有史様、和田淑子様

四、創立145周年記念事業について

●記念総会開催のご案内
令和3年11月13日(土)
於 ホテル一畑(松江市)

来年は、創立145周年を迎え、記念総会を開催します。

詳細は来年の会報にてご案内いたします。多くの皆様のご出席をお待ち申し上げます。

●同窓生名簿「双松」発刊予定のお知らせ

令和3年7月下旬発行を予定しています。予価5千円です。前回同様、株式会社サラトに委託することとなりました。

本会報のお届けにあわせ、委託業者から記載事項確認のための調査カードを同封しております。確認はがきの返送に、協力ください。

令和2年度双松会幹事総会報告

5月21日(休)松江北高校会議室にて開催された第1回役員会(正副会長・幹事長会)で、「双松会会則」の「第10条 第2項 役員会は毎年1回開くことを原則とし、これを総会にかえることができる。」に則って、次のように取り決めた。

※新型コロナウイルス感染症予防策として、今年度は、6月の常任幹事会ならびに7月の幹事総会を中止とする。

※令和3年11月13日(土)にホテル一畑で記念総会を開催する。

※来年に向けて、双松会のホームページを立ち上げる。

【協議議題】
一、令和元年度会務報告
二、令和元年度決算報告および監査報告
三、令和2年度会務計画(案)

【報告】
一、名簿について
二、各地区の双松会について(大田・安来)
三、双松会会報発行について
令和2年度双松会役員

顧問 金築 修(松中61期)
会長 松本 幹彦(高1期)
副会長 庄司 肇(高11期)
金津 任紀(高16期)
古瀬 誠(高16期)
勝部 昌幸(高21期)
菅野 恵子(高22期)
河原 一期(高23期)
泉 雄二郎(高26期)

Table with financial data for '令和元年度 双松会会計決算書' and '令和2年度 双松会会計予算書(案)'. Includes columns for income (収入), expenses (支出), and balance (繰越金).

Table with financial data for '令和2年度 双松会会計予算書(案)'. Includes columns for income (収入), expenses (支出), and balance (繰越金).

Table listing board members and staff: 幹事長 金平 憲(高16期), 副幹事長 庄司 尚史(高23期), 監事 栗原 康郎(高13期), 常任幹事 山口 慎子(高16期), 田村 康雄(高34期), etc.

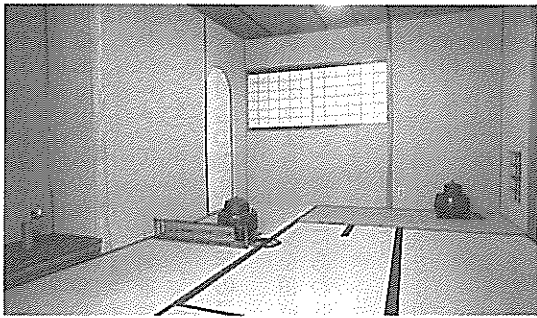
特集 茶室について

昭和53年、校舎が川津から赤山に移転した際に同窓生会館「起雲館」が建設され、3階に総ヒノキづくりの茶室が設けられました。昭和53年6月17日に行われた茶室開きでは、前校長兼折氏、森脇氏をはじめとする22名の招待客や校内の先生・職員の方々を茶道部11名がおもてなしたとのことです。

起雲館3階は、中央を廊下に通っており、廊下の南側に西から7畳半の和室、1畳台目(※注) 中板付きの茶室「南田庵」、3畳の水屋が2部屋、4畳半の茶室「沖舟亭」の5部屋があります。また、これらの和室の北側にはつく



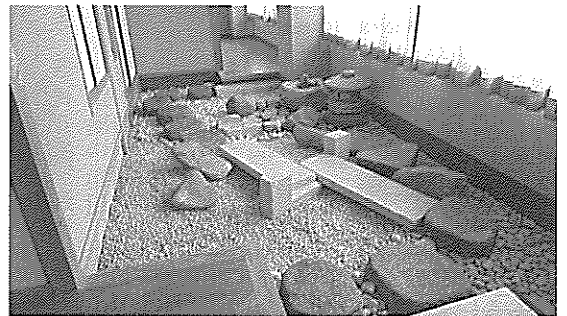
扁額



沖舟亭

ばいや飛び石を置いた内庭があります。この配置は、お茶席として利用する際に西側の7畳半の和室を待合とし、内庭を通って本席である「沖舟亭」にご案内する動線を企画したことに由来のものと推察されます。

茶室「南田庵」は松江府菅田町にある茶室「菅田庵」写しとなっています。「菅田庵」は江戸中期、松江藩松平家七代藩主で茶人としても知られる松平治郷(不昧)の指図でつくられた日本を代表する茶室です。「菅田庵」には容易に入る事ができませんが、「南田庵」は校内にあって容易に利用でき、不昧公の茶の湯の

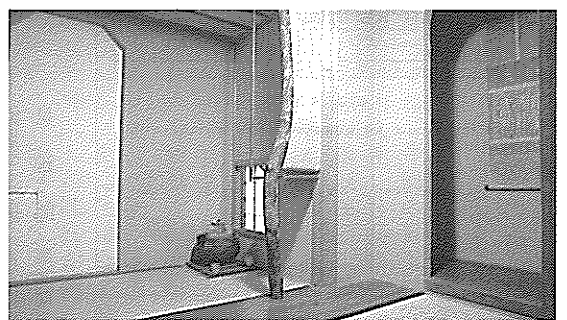


内庭

精神の一端を身近に感じることができま

す。これらの施設は川津校舎にあったもので、「南田庵」、「沖舟亭」の扁額は川津校舎のものに移転されているようです。

松江北高校の前身の一つである「松江高等女学校」「松操高等女学校」には、校内に茶室が整備されていました。特に松操高等女学校に昭和13年に整備された独立家屋の茶室は、総建坪11坪、本席は2畳台目の「明々庵」写しと4畳半台目の「向月亭」写し、他に待合や水屋、庭にはつくばいや飛び石、灯籠も備えられていたとのこと。また、昭和16年度の松江女学校の教育課程表を見ると、補習科の授業に茶道2単位があります。戦後、教育課程から茶道の授業は無くなりましたが、クラ



南田庵

ブ活動として茶道部が活動を続け、男女が共に学ぶ川津校舎でもお茶室が整備されたと考えられます。そして、その伝統は現在の起雲館の茶室にも受け継がれています。

現在は茶室と水屋を主に茶道部が、7畳半の和室を主に百人一首かるた部が使用しています。今年には畳や障子の張替えをしていただくことができ、清々しい蘭草の香りが漂う室内で気持ちも新たに活動することができています。本校の伝統の一端を感じることができ、施設を今後も大切に使用していきたいと思

(注) 台目：茶室の畳で1畳の約4分の3の大きさのもの

※参考文献 『松江北高等学校百年史』

各期だより

松高九期傘寿同窓会報告

高九期 園山哲也(同期幹事) 標記の松高九期同窓会が、平成31年3月7日ホテル一畑にて盛大に開催されました。前回の喜寿同窓会以来、4年ぶりでしたが、124名の参加があり、関東・関西・東海・中国・九州と全国から懐かしい顔ぶれ、久々の再会を楽しみました。

今は、松江北高として赤山に帰っていますが、私たちは、川津校舎で学んだ同友、1クラス50名13クラス全校1800名という県下一のマンモス校で、多感な青春期を共にしたのです。傘寿を迎えても、今日一日で青春に振り返いた感じがします。同窓生の絆は強く、永遠に続いていく気がするのです。半世紀にわたって会長を務めてくれた小林忠夫君に感謝し、全体会を終えました。それぞれに友情は尽きず、余韻を残しながら、再会を期して別れの時となりました。

当日は、新舞踊・オペラ・詩吟・版画のプレゼント等々、数々のサプライズがあったのですが、中でも、同窓会会員の皆さんに、是非お伝えしたいことがあります。

それは、2016年、国連での核廃絶スピーチを報告してくれた森川高明君(広島市在住)のことです。被爆者である彼は、後にノーベル平和賞

を受賞した「核兵器廃絶国際団体（ICAN）」と連携した「ピースボート」の一員として、国連で被爆体験と核廃絶の必要性をスピーチしてきました。その年は、「核兵器禁止条約」の国連での討議開始の機運が高まった時期でした。このプロジェクトは、被爆者が世界中を回り各国の政治リーダーや市民に核廃絶を訴えるもので、スピーチの10日後、国連での討議開始が決定しました。

2017年7月7日、「核兵器禁止条約」は正式に国連で批准され、現在まで25か国が批准を済ませ、目標の50か国を達成すると、「核兵器禁止条約」が奏功します。

彼自身、これからも被爆体験証言を通して、核のない世界を目指す決意をしています。このような、行動力のある友を持つている私たちは、松高同窓生の誇りであり、皆で応援していきたいものです。多くの朋友といつの日か再会できる日を楽しみに。

双松会地区だより

東京双松会

東京双松会 事務局長
糸川 孝一 (高31期)

この度の新型コロナウイルスに罹患された方々と感染拡大により生活に影響を受けら

れている方々に心からお見舞い申し上げます。

東京では新型コロナウイルス感染拡大のため三密回避、マスク着用、消毒などが欠かせない毎日が続いています。双松会員様におかれましてはお変わりなくお過ごしでしょうか。

コロナ禍につきましては令和2年5月25日に緊急事態解除宣言が発出され経済活動も徐々に戻りつつありますが、東京においては収束の目途が立たず、何よりも会員の皆様の健康を第一と考え、本年の東京双松会総会の開催を中止することにしました。

予定していた日本バスケット協会理事の宇田川貴生さん（55年卒）の講演、声楽家の岩井翔平さん（H22年卒）によるミニリサイタル、俳優で落語家の富岡寛さん（S46年卒・芸名・秋山格之進・麴家寛太）による落語につきましては来年の総会にてご講演並びにご披露いただくようお願いしています。

さて、東京双松会では、昨年、新たな時代「令和」に変わる機会に東京双松会のホームページを一新しました。この1年間で、医療従事者でもあるHP担当の幹事には多忙な中熱意をもって取り組んで頂きました。元事務次官の毛利副会長から始まったリレーメッセージは10回を数え、途中、現役大学生からの特別寄稿な

どもあり幅広い世代に支持されてきたように思います。ぜひ一度ご覧いただきますようお願いいたします。

https://tksoho.qwc.jp/index.html

末筆ではありますが、会員の皆様におかれましてはご健康に気を付けていただき、くれぐれもご自愛いただきますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先

東京双松会事務局
〒102-0084
千代田区二番町11-3
「中央印刷事務器(株)内」
TEL 03-3265-4858

近畿双松会

近畿双松会 会長
松本 耕司 (高16期)

「次代への継承」を目標に本年度の活動に入った矢先、「新型コロナウイルス感染」に直撃され、これまでに落語鑑賞ゴルフ、文楽鑑賞の行事を中止としました。現在、秋以降の活動再開をめざし、役員会で総会、ハイキング、歴史ウォーキング、宝塚歌劇鑑賞について協議を始めようとしているところです。

なお、新たに開始したSNS（メールマガジン、LINE@）による情報配信が好評ですので、今後は重要な活動情報はホームページに加え、逐一SNSでも配信します。未登録の方、移動が多

い世代の方は、下記で（一方だけでも可）ぜひ受信手続きをお願いいたします。

※「メールマガジン」登録：
①ホームページ経由、②左記QR、③専用アドレス宛のいずれかでメールアドレスを登録ください。

※「LINE@」登録：
kinkisoushoukai-net@kinki-soushoukai.org

※「LINE@」登録：
左記QRからお名前、卒業期を登録ください。
令和2年度総会講演会懇親会
（9月に最終判断）
（仮予定）11月28日（土）
午前11時、
於：中央電気倶楽部

近畿双松会ホームページ

http://www.kinki-soushoukai.org/

お問い合わせ先：
①専用アドレス：
master@kinki-soushoukai.org
②電話：松本耕司宛
（携帯：09066098817）



広島双松会

広島双松会 副幹事長
渡部 賢 (高36期)

令和元年11月に14回総会を双松会副会長勝部昌幸様およ

び松江北高教頭田村康雄様にご臨席賜り開催し、活動計画等を決定しました。また、設立当時より数々のご支援を頂いている島根県広島事務所から志田原課長様に出席賜り、総会に華を添えていただきました。設立以来同級生や職域を通じて口コミで情報を伝達することとしています。会報をご覧いただいた方、事務局へご連絡いただければ喜びます。

●行事予定

※コロナ禍への対応により、中止・変更となる場合があります。

- ①納涼親睦会
令和2年度は中止といたしました。
- ②親睦ゴルフコンペ
令和2年秋頃開催予定
- ③15回総会・懇親会
日時 令和2年11月14日（土）
16時～19時
場所 広島ダイヤモンドホテル

連絡先

副幹事長 渡部 賢
08273330876
広島市西区高須台3-10
TEL&FAX
08272738204
携帯電話
080-3871-3331
e-Mail
tskpapa202@sky-megaeg.ne.jp



米子双松会

米子双松会 事務局長 中西 秀夫 (高15期)

2月23日、双松会より泉雄二郎副会長・金平憲幹事長、松江北高校より田中正樹教頭・宮井賢治校内幹事をお迎えし、令和2年総会を開催しました。講演は本会会員の永見輝雄氏(永見齒科クリニック院長・高24期)に「口と歯と健康と」をテーマに、特に高齢者の口腔衛生について、具体的に分かり易く話していただきました。

毎年7月に開催している納涼会は、依然として終息しない新型コロナウイルス(鳥取・島根の感染者は少数であるが)のため残念ながら初の中止となりました。ゴルフ部会は毎月大山のゴルフ場をローテーションでコンペを行い、多い月は5組の参加があります。旅行部会は「中海フルーツパーク」(会員の石田康雄氏・高21期が昨年米子市彦名町に開業)の観光農園でいちご狩りを。また、野鳥観察の西日本屈指のスポットである米子水鳥公園もすぐそばにあり、野鳥観察といちご収穫体験を楽しみたいと思っております。

連絡先

米子双松会事務局 〒689-13402 米子市淀江町淀江771 TEL&FAX 0859-15612315

安来双松会

安来双松会 事務局長 山本 敏照 (高17期)

足立三樹夫幹事長のご冥福をお祈りします。

平成29年12月開催の、「双松会卒業生追懐談笑の集い」から、次期をみて総会の開催を計画していましたが、昨年6月に、長年本会の活動を支えていただいた足立三樹夫幹事長がご逝去され、また、島田一嗣会長から会長職を交代したい旨の申し出があるなどしたため、何度か役員会で協議を重ねた結果、次期会長は、先の談笑の集いの代表世話人の大槻嘉光さん(高15期)にお願いすることになり、新役員を含め次期総会で承認を得ようということになりました。

しかし、今年に入ってから、新型コロナ問題が発生し、総会開催の目処が立たなくなりました。そのため、役員会の決定をもって総会の決議に代えることとし、会員各位には本年6月1日付で会長交代の件の周知を図るとともに、双松会本部へその旨報告させていただきました。

足立幹事長のご冥福を心からお祈りするとともに、コロナに関しましては、一刻も早い収束を願うばかりです。

次期総会の開催は、コロナの状況を注視しながら良い時期に計画したいと思っています。その折には、是非多くのみ

なさんにご参加していただきたいと思っております。

通信制双松会

通信制双松会 会長 野津 裕

通信制双松会が発足して4回目の総会を令和元年11月9日米子ワシントンホテルプラザで開催しました。

総数83名。中東部の安来、松江57名、中部の出雲、雲南9名、西部の浜田、益田の9名、県外5名、教員を代表して、元教頭中西秀夫先生、安部昭彦先生、山崎武道先生方にご出席願いました。今回は東部安来地区の担当で、会場準備や会場設営及び当日受付等に多くの一般卒業生の活躍

ぶりが印象に残りましたが、とりわけ会場テーブルの半数近くを占めた日属機械科卒業生、しかも卒業年度毎にそれぞれ顔ぶれの多さに驚きました。従って出席数が80人台になったのは特筆すべき事です。会を盛り上げてもらった機械科幹事のご尽力に感謝します。

総会は安来一般生の瀬崎鶴夫(S43卒)さんの歓迎の言葉で始まり、同じく安来一般生の今岡孝示(S47卒)さんの巧みな進行で議事等順調に終了。

懇親会冒頭は坂本副会長が経過報告。通信制の長い歴史の中で出席者個人個人が何年

の卒業でその時何があったか分かるという手の込んだ図表の解説があり好評でした。

懇親会はやはり出し物の披露ですね。今回の目玉は安来節の片山久美(S61卒)さんと三味線の桑原智司(機械科H6卒)さん。本番前、ホンの数回の音合わせにも関わらず自分の安来節道場のお師匠さんと若いながらも巧みなバチさばきのご披露はさすが、満場を唸らせました。お互い卒業以来会ったことはなく音合わせの時二人の師匠が同じ人だったと分かったそうで……。

後の続きは朝木悟(機械科S50卒)さんが隠岐出身なのでキンニヤモニヤ踊りがあったり、内田盛信(安来S45)卒さんの相撲甚句があったり、安部光行(安来S47)さんの詩吟等で満場熱気に包まれました。会場は例の如くあっちもこっちも大輪の輪が咲き乱れ、それぞれの思い出を胸に時間も限りがあるので再開を楽しみにお開きとなりました。

第5回通信制双松会総会

懇親会のご案内

期日 令和2年11月14日(出)

14時より

場所 出雲市渡橋町83-1

「出雲ロイヤルホテル」

TEL 0853-2317211

会費 6500円

参加申し込みは、ハガキに住所、氏名、電話番号、卒業年を記入して左記に申し込んで下さい。

申し込み締切 9月30日 〒699-10622 出雲市斐川町名島2-1

伊東 健治 行き

詳細は参加申し込み者に後日連絡致します。お問い合わせは 伊東健治 (090-713618190)

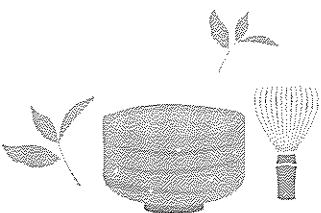
*未だ新型コロナウイルスによる三密の警戒が解除されていない状況でありますので、総会の開催が出来ない場合は参加申込み者に連絡を致します。

令和元年度 通信制双松会会計報告

収入総額 579,135円 支出総額 0円 残 額 579,135円

Table with 3 columns: 項目, 金額, 備考. Rows include 繰越金 (571,891), 雑収入 (4), 合計 (579,135).

支出の部 支出なし



本年度の進路状況

進路指導部長 富田 一志
(理科12期)

2020年度大学入試センター試験における受験者数は、前年から1万9131人減の55万7699人で2年連続の減少となった。一方で国立大学一般選抜志願者総数は前年から3万492人減の44万3千66人であった。前年度は8年振りの増加でしたが再び減少に転じ志願者数が45万人を下回った。志願倍率は、微減の4.41倍であった。平均点は、文系548点、理系559点(いずれも900点満点)と、いずれも前年度対比では、文系が22点ダウン、理系は17点ダウンといずれも10点以上のダウンで2013年以来の大幅ダウンとなった。文系、理系いずれも大幅ダウンとなったのは、英語や数学といった受験者数の多い科目の平均点が大幅ダウンしたのが要因である。学部系統別の志願者数を見ると、国立大前期日程で工学部が指数98でほぼ昨年度並みになっているのを除くと他の系統は大幅に減少した。特に外国語系統は昨年度4年振りに大幅に増加した反動を受け指数81の大幅減であった。

本校生徒の入試結果を振り返ると、国立大学合格者数は、現浪合わせて延べ165で、昨年からの減少した。前期合格者数が昨年の149から132、

中後期合格者数が昨年の27から18と、どの日程でも減少している。いわゆる難関10大学(旧帝国大7大学+一橋・東京工業・神戸)の合格者数は17で昨年の22から減少。国立大医学科は7であった。2021年度入試からセンター試験に代わり大学入学共通テストが実施されることもあり、慎重な出願・受験が多くなり、慎重な出願・受験が多くなり、浪人を避けたいという希望が多かった。次年度以降、生徒の希望を叶えることができるよう、いっそう努力しなければならぬ。

2020年度の高3生から、現行の「大学入試センター試験」が「大学入学共通テスト」に変更になるが、その内容が明らかになってきている。数学①(数学I部分)の記述導入は見送られたが試験時間が60分から70分に延長になること。英語の配点が筆記100点、リスニング100点に変更になること。さらに、現在平均点設定は60%であるがこれが50%になるといわれている。また、学習評価に関し、ポートフォリオ評価を導入、調査書の形式も変わると言われている。様々なことが変化しつつある。

この改革は、先行き不透明な社会を生き抜く力をつけるために、大学教育・高等学校教育とその2つをつなぐ大学入学者選抜を三位一体で改革する「高大接続改革」の一部で、大学教

育・高等学校教育の改革は既に進行している。また、大学入学者選抜においても、入試問題の質や、入試形態に改革の兆しは見え始めている。入試改革では、面接試験での自分の思いが重視され、プレゼンテーションを課す大学も徐々に増えている。

この改革の源流は、「社会がどのような人材を求めているか」にある。すなわち、高校生にとつては、「どのような人材になるか」という問題を「自分事」として考えていく必要がある。自分がどんな力をつけ、どんな形で社会に貢献し、どんな人々を幸せにするために生きるのか、そんな「生き方」を考え、次のステージを選択することが重要になる。それがいわゆる将来の「夢」につながる。その夢に対する思いが強ければ強いほど、目の前の高い壁に向かう意欲が強くなる。次のステージに向けて壁を乗り越えることこそが「受験」である。北高では、何度も何度も面談を繰り返して、自分の「生き方」を考え、そのために必要な力をつけるための努力を継続する。その過程では大きな苦しみを伴うことも少なくない。現役生にとつては、何もかもが初めての経験で、手探りの模索が続く。しかし、その経験を乗り越えたと、知らぬ間に「生き方」を考え、前に進むことができるようになる。

また、今年度はコロナウイルスの流行により休校からスタートし、長い休校、県総体・インターハイの中止、各種コンクール等の中止、分散登校そして今

現在(6月中旬)通常登校に至っている。就職試験が1ヶ月遅れになることが確定、総合選抜型入試(昨年度までのAO入試)が2週間繰り下げられることは確定したが、大学入試に関しては未定のことが多い。生徒諸君も不安であろうし我々自身不安に思うことばかりである。

休校中にオンラインでの朝礼を行う等新しい試みも試しているところである。コロナと共生する時代が来るのであろう。その時代を生きていく生徒達に対して我々はどういう教育をしていくのか。北高が試される時代が来ている。

進路状況

令和2年度入試学校種別合格者延べ数及び就職者数(令和2年4月集計)

卒業生	平成30年3月			平成31年3月			令和2年3月		
	現	卒	計	現	卒	計	現	卒	計
国立大学	134	29	163	110	33	143	100	27	127
公立大学	41	6	47	39	6	45	31	7	38
私立大学	234	27	261	220	59	279	306	85	391
短期大学	16		16	17		17	12	4	16
専門学校	27		27	19		19	22	1	23
就職			0		1	1			0
合計	452	62	514	405	99	504	471	124	595
クラス数	8クラス			7クラス			7クラス		

編集後記

盛夏を迎え、双松会の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

2020年の年明けから新型コロナウイルスの影響で世界中が騒然とし、多くの人が先行きの見えないうちで不安な生活を余儀なくされました。本校も4月始まって間もなく1ヶ月強に渡って休校となりました。高校総体、総文祭、甲子園等の一大イベントも中止となり、生徒からは不安や悲しみの声が上がりました。今までの努力の成果を発揮する場を失った生徒にはかけがえのない経験となりました。経験したことのないような事態に、改めて「学校で勉強できる」という、今まで当たり前でできていたことのありがたさを感じ取りました。

新型コロナウイルスの影響で辛い状況が続きましたが、そのような中でも北高生はたくましく前向きに、自分達でできることを探し、たゆまぬ努力を続けていました。校訓である「質実剛健」の精神はしっかりと北高生の中に流れているのだと強く実感しました。現在、学校は再開し、賑やかな日々が戻っています。また、3年生は新たに実施される「大学入学共通テスト」の受験に向かって、日々の学習を全力で取り組んでいます。私は今年から顧問として教員となり、母校で教員生活をはじめることになりました。私が経験した以上に、生徒達が充実した日々を過ごすことができるように努力し、そして私も生徒達と共に成長していきたいと思っております。

最後になりましたが、お忙しい中、原稿を執筆して頂きました皆様、誠にありがとうございます。そして、すべての双松会の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

(事務局)